

や ま あ い

山間で暮らし働く



設楽町津具

森を育てる。山を守る。



設楽町津具地区全景

主催:旅館みのや 協力:津具森林組合・津具商工会

森とふれあい、森を守るお手伝いをしてみませんか？

林業とは、森林を維持管理し、育成した樹木を伐採して木材を生産する仕事です。森林は放置しておいて勝手に育つものではありません。特に人工林は植樹から伐採までこまめに手を入れて、途切れること無く、世代を更新していかななくてはならないのです。

町で生活をしていると、山や森林と関わることは少ないかもしれません。年に数回、森林浴や気分転換に訪れるだけでしょう。しかし、実は町の生活と山は密接な関係があります。町で毎日飲まれている水は、山から流れてきます。住む家の材料は、山で育てられて運ばれてきたものです。町で消費される多くのものが山からの恵みなのです。

旅館みのやでは、そんな森を守るための作業のひとつ、植林体験のできる宿泊プランをご提供いたします。是非、設楽町を訪れて、津具の山を守るお手伝いをしてみませんか？

旅館みのや

古い歴史と伝説、文化に支えられた、標高680mの津具高原の中心部のどかな田園風景に囲まれた静かな山のお宿です。

しし鍋・川魚・山菜など季節の料理でおもてなしいたします。



設楽町津具地区とは

設楽町は平成17年10月1日に旧設楽町と旧津具村が合併して新たな設楽町として誕生しました。愛知県の北東部に位置し、人口6,000人ほどのまちです。町の総面積のうち山林が約9割を占め、豊かな自然と共存しており、その中でも津具地区は、周囲を1000m級の山々に囲まれた盆地型の高原の土地で、集落のほとんどは標高600～750mの盆地内に位置しています。天竜奥三河国定公園の特別保護地区にも指定されている「面ノ木園地」は、樹齢300年のブナの森が広がり、秋には紅葉が美しく、冬には樹氷を見ることができます。



津具川の桜



ブナの森



ハンゴシノウ

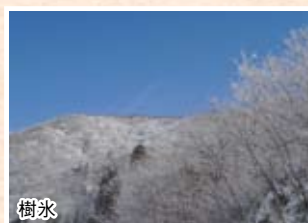


花火

盆踊り



紅葉



樹氷

また、地区内の白鳥山では国指定重要無形民族文化財に指定されている「花祭り」が1月2日に開催されます。花祭は奥三河の各地で行なわれる湯立て神楽で、霊を払い、無病息災、五穀豊穡、繁栄を願う神事芸能です。



花祭り

このほか、地区北部にはトータルアウトドア施設の「つぐ高原グリーンパーク」があり、道の駅として指定されています。

春にはしだれ桜や山桜、ソメイヨシノが地区内各所で咲き、初夏の新緑の季節を過ぎると、6月から7月にはホテルが光り舞い、8月には地区の盆踊りと花火大会が行われます。10月になれば、山々は秋の装いをまとい始め、秋も深まるとそこかしこで紅葉を楽しむことができます。冬は平野部に比べると雪が多いですが、だからこそ樹氷などの景色を見ることが出来るのです。津具地区は四季折々の自然に恵まれた、ヒトと自然が共生する町といえます。



設楽町津具地区 林業就労体験プログラム

時間	就労体験内容		
第1日	13:30	旅館みのや 集合	  
	14:00	つぐ高原グリーンパーク散策	
	17:00	旅館みのや	
	18:30	座談会「林業についての講話」 〈夕食〉 〈宿泊〉	
第2日	8:00	津具森林組合 集合 〈朝食〉	
	8:30	現地にて 植林作業体験 〈雨天の場合〉木工体験	
	12:00	休憩 〈昼食〉	
	13:00	休憩	
	16:30	現地にて解散	

〈募集人員〉15人(最小催行人員／6人) 〈体験期間〉1泊2日 平成23年 5月17(火)・18(水)

〈参加費用〉13,000円 宿泊費(1泊3食)、傷害保険代金を含む

〈作業内容〉植林体験

〈応募資格〉三河山間地域での仕事・生活に関心のある方

〈その他〉傷害保険に加入していただきますが、体験中の怪我、事故等は自己責任になります。

●お申込み・問い合わせ先

旅館みのや

〒441-2601 愛知県北設楽郡設楽町津具字寺屋敷11-5
TEL 0536-83-2156 FAX 0536-83-2892
フリーダイヤル 0120-822-156

森のはなし

世界の森林率の平均はおおよそ3割といわれています。その中で日本の森林率は約7割といわれ、世界で三本の指に入る森林率の高い国で、まさに日本は森の国なのです。

そのような日本の森林は天然林と人工林の2つに分けることができます。天然林とは、自然のチカラによって育ててきた森林のことを指し、日本の森の約6割がこの天然林です。一方残りの約4割は人が手を入れてつくり上げてきた人工林です。

この人工林は、間伐や下草刈りなど、適切な手入れを続けることで活性化します。それが安い輸入外材に押されて国産木材の需要が減ってしまったことで、植えてから30年から50年を経過し、収穫期を迎えているのに、放置されている森が多いのです。収穫期を迎えた森林を伐採し、植えて、育てる、そして伐採するという適切な手入れをしてこそ森は元気になるのに、それができない森が増えています。

他にも、森には大きな役割があります。森の土は木の根や落ち葉などのおかげですきまがあってスポンジのようにフワフワしていますので、森に降った雨を一時的に土の中に蓄えてくれます。これは森林のもつ「水源かん養機能」と言われるもので、森は緑のダムとも呼ばれています。さらに、この過程で、雨水が地中に浸透する際に水を濾過(ろか)したり、化学物質を吸い取って水を浄化しています。川の源流である森を守ることは、はるか下流の魚たちも守ることにもなります。

ほかにも、土砂災害を防いだり、温暖化防止にも森は大きな役割を果たしています。

森を育て、守ることは、地球を育て、守ることと同じことなのです。

